

橋梁メンテナンス技術研修会【第3回】レポート

令和元年11月21日、さいたま市浦和区のさいたま共済会館にて開催された橋梁メンテナンス技術研修会【第3回】において、関東道路メンテナンスセンターの職員が講師を務めました。

この研修会は埼玉橋梁メンテナンス研究会が主催するもので、橋梁の点検、補修等の維持管理に携わる埼玉県内の自治体職員および民間の技術者、橋梁の維持管理に興味がある学生を対象としたシリーズ研修の最終回として開催されました。

関東道路メンテナンスセンター職員は「関東地方における道路メンテナンスの最近の話題」と題し、次のような講義を行いました。

- 1.道路行政を取り巻く最近の情勢について
- 2.直轄国道の維持管理における取組
- 3.関東道路メンテナンスセンター
- 4.直轄国道の維持管理における今後の展開

1.では、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」について、重要インフラの緊急点検を踏まえ「国民経済・生活を支えるインフラ等の機能維持」の観点から特に緊急に実施すべきハード・ソフト対策について説明。

2.では、関東地方整備局管内の橋梁の現状として、全体の約32%が高度経済成長期に建設されたものであり、20年後には建設後50年以上経過した割合が67%まで増加することを説明しました。また、トンネルにおいても、20年後に建設後50年以上経過した割合が70%までに増加すると説明し、メンテナンスサイクルの構築と推進の必要性と、関東地方整備局のメンテナンスサイクルへの取り組みを紹介しました。

3.では、関東道路メンテナンスセンターについて、平成31年度に新設されたこと、役割、直轄国道・市区町村におけるメンテナンスの技術に関わる所掌や、学識者・有識者との連携、関東道路メンテナンス推進委員会の設置について説明。

そして4.では、メンテナンスのセカンドステージとして、①予防保全を前提としたインフラメンテナンスの計画的な実施、②新技術の導入等による長寿命化・コスト縮減、③過積載撲滅に向けた取組の強化、④集約化・撤去による管理施設数の削減、⑤適切な予算等の確保、⑥地方への国による技術支援の充実を挙げ、今後のメンテナンスにおける展望を紹介しました。

データを示しながらの講義に、聴講者はメンテナンスの重要性と必要性への理解を深めた様子でした。



講義をする関東道路メンテナンスセンター職員



講義に聞き入る聴講者



講義はレジュメを映しながら実施された